

WCS用麦の早期播種が収穫時期と収量に与える影響

岡山県農林水産総合センター畜産研究所 飼養技術研究室 長尾 伸一郎

背景と目的

麦WCSはイネWCSと同等の飼料価値があることが確認されたが、収穫時期が早くイネとの二毛作体系での普及の阻害要因である。また収量の確保も求められる

早期播種による収穫時期の早期化
追肥時期の検討

早期播種・追肥時期が収穫時期と収量に及ぼす影響を明らかにする

方法

大麦とライ小麦を用い、播種時期を通常と早播を設定し、それぞれ追肥時期を変えて出穂期、収量を調査した

表 試験区

草種	播種日	追肥時期	
		ライ小麦	大麦
ライ小麦	10月26日(早播)	3月8日	3月8日
大麦	11月22日(通常)	3月29日	3月24日
		4月20日	4月6日

・調査項目 出穂期 生・乾物収量

結果

播種を4週間早くすると、出穂期が1~2週間程度早くなったが収量が低下した
追肥は早春施肥が有効であった

表 大麦の播種期と追肥時期が収量に及ぼす影響 kg/10a

播種日	追肥日	出穂日	収穫日	生収量	水分	DM収量	収量指数
10月26日	3月8日	4月13日		2262	68.6	710	85
	3月24日	4月14日	5月16日	1807	67.4	590	70
	4月6日	4月14日		1341	68.4	422	50
11月22日	3月8日	4月21日		2382	64.8	838	100
	3月24日	4月21日	5月24日	2236	64.4	794	95
	4月6日	4月22日		1811	63.8	652	78

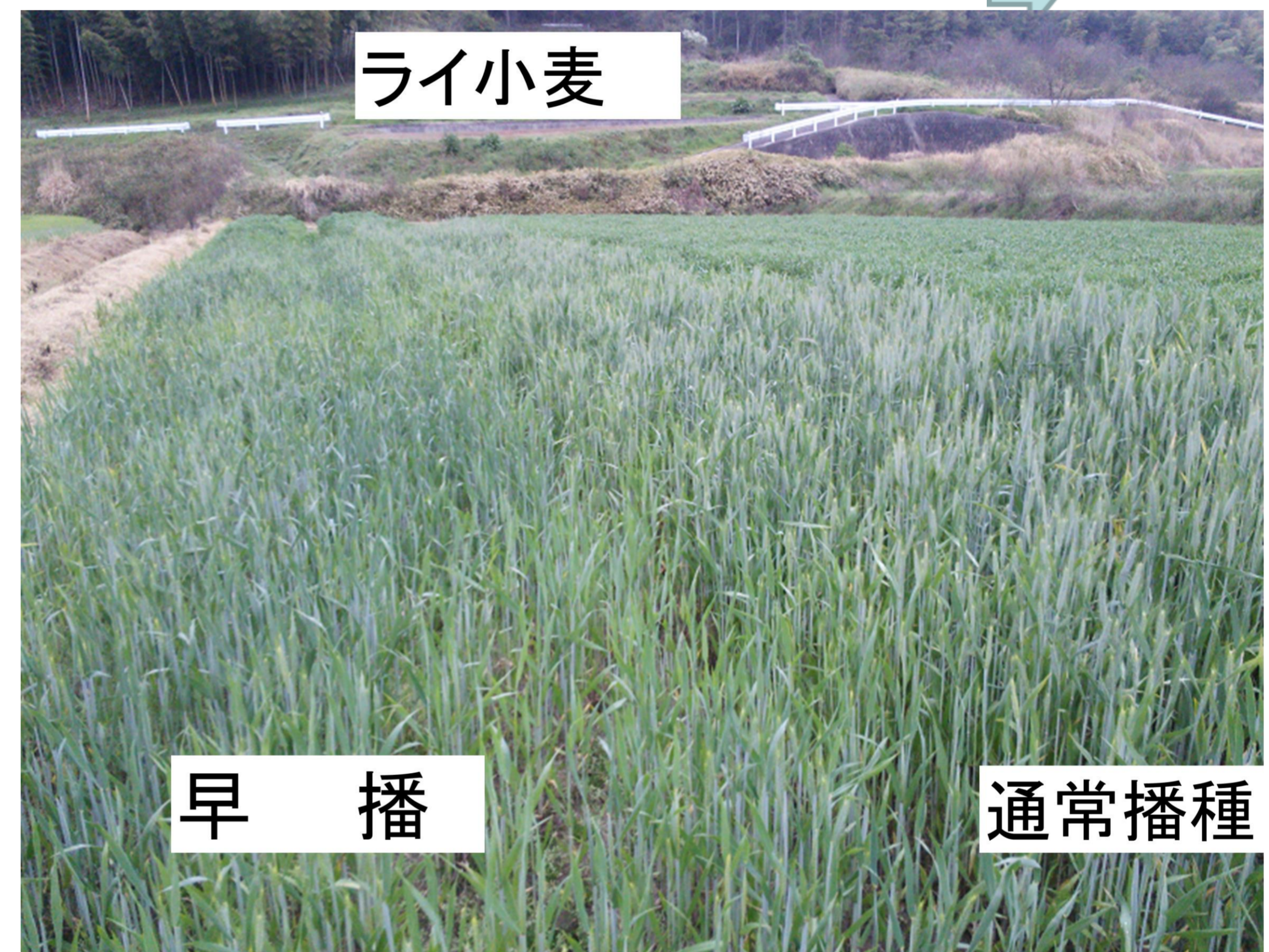
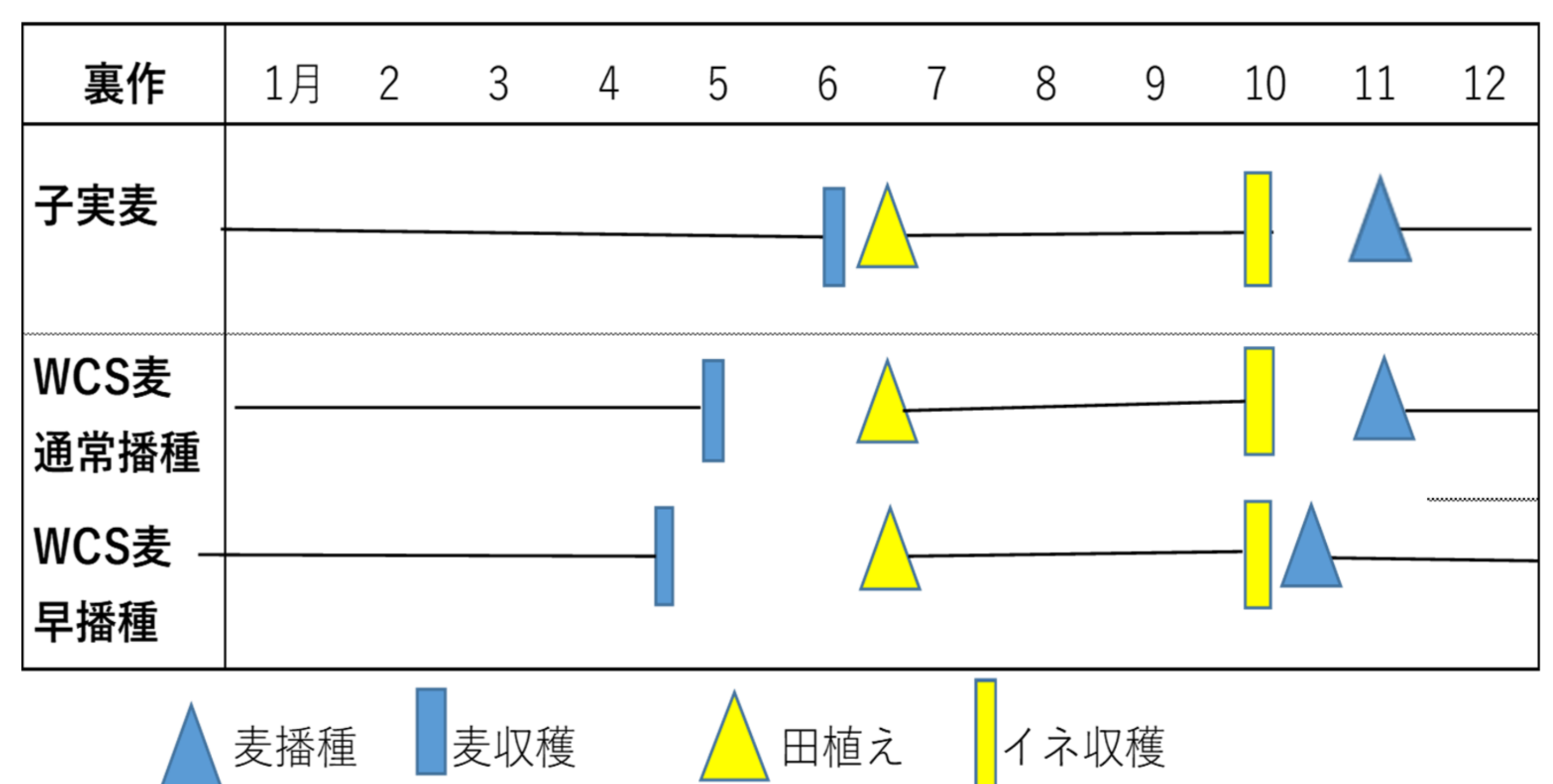


表 ライ小麦の播種期と追肥時期が収量に及ぼす影響

播種日	追肥日	出穂日	収穫日	生収量	水分	DM収量	DM収量指数
10月26日	3月8日	4月26日		2262	66.0	769	72
	3月29日	4月26日	5月30日	1950	67.2	642	60
	4月20日	4月27日		2090	67.5	679	63
11月22日	3月8日	5月9日		2990	64.1	1072	100
	3月29日	5月9日	6月10日	2940	64.4	1046	98
	4月20日	5月10日		2680	63.1	988	92

イネWCSと麦WCSの作付体系概念図



まとめ

播種を通常より早くすると、出穂期が早くなり、表作であるイネの定植などの作業まで日程的に余裕が生まれ作付体系を組み立てやすい

収量が低下するので、追肥は早春に行い収量確保を行う必要がある